

暗闇を照らせ (ネイチャーゲーム)

プログラムの概要・ねらい

暗闇の中を忍び足で歩き、見張り役に気付かれないようにするゲームである。

夜の静寂を感じながら、足の裏の感覚や聴覚を研ぎ澄ませることができ、感性や冷静さ、集中力を養うことができる。

ナイトハイク前のイメージ作りに最適である。

| | | | |
|-----|---|---------------|----------------------|
| 場所 | 野外活動ゾーン・いこいの広場 | 4 質の高い職育をみんなに | 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに |
| 時間 | ～30分程度 | 15 陸の豊かさも守ろう | 16 平和と公正をすべての人に |
| 値段 | 無料 | | |
| 季節 | 年間 | | |
| 人数 | 30人程度 | | |
| 準備物 | 【利用者】季節に合わせた服装、目隠し用タオル、スタート・ゴールを示すロープ、懐中電灯、救急用品 【自然の家】特になし | | |

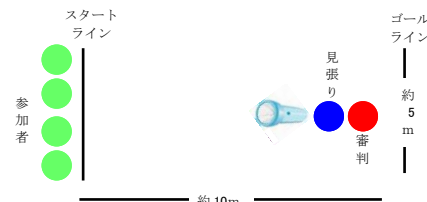
①準備

活動場所は周りが静かな所を選ぶ。
活動開始前に安全面についての指導を行う。

②実施の流れ

【所要時間】 プログラムの説明
全行程 活動のルールを確認する。
30分程度 【実践の手順】

- ① 見張り役と審判を決め、見張り役は懐中電灯を持って、目隠しをして座る。審判は見張り役の後ろに立つ。
- ② 審判以外の人はゲームが終わるまで声を出してはいけない。
- ③ 残りの人はスタートラインからゴールラインまで忍び足で歩く。その際、見張り役は懐中電灯の光を音や気配のする方向に向ける。
- ④ 懐中電灯で照らされた人は「あたり」である。審判は「あたり」「はずれ」を素早くはっきりと言う。
- ⑤ 「あたり」の人はその場にしゃがみ、声や音を出してはいけない。



※見張り役が懐中電灯を振り回したり、連射したりするのは反則である。

光を向ける回数を制限するのもよい。

※スタートとゴールの幅が同じだと見張り役から一番遠い端に

※参加者が集中してしまうことがある。スタートが広く、ゴールが

狭い台形のようなエリアにすると、全員が見張り役に接近して通ることになり、緊張感が増す。

応用 ※ ナイトハイクの際に数人の見張り役が道の所々に座り、目的地までに見張り役に当てられないように移動するという楽しみ方もできる。

詳細は…日本シェアリングネイチャー協会HP <https://www.naturegame.or.jp/>

※注意が必要な動植物があるので確認し、スズメバチや毒ヘビ等に遭遇した場合の注意を徹底する。(別紙 注意が必要な動植物参照)

③後片付け

特になし